下野市立国分寺東小学校

１　学校課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業を目指して

～「学び合いを支える」能力を育てる工夫・改善～

２　研究計画

（１）　研究主題設定の理由

昨年度は「『主体的・対話的で深い学び』の実現する授業を目指して」を研究主題にかかげ、国語・算数中心の研究を考えていた。しかし、新型コロナウィルス感染症による影響で「密にならない対話」、休校による授業時間の不足をカバーする家庭学習のさせ方、帯学習（単位時間の始めに年間を通して基礎基本の定着をはかる活動）で知識技能のスキルを向上させることに研究の中心を変更した。

今年度、研究に取り組むにあたり、本校の現状についての確認を行い「全国学力・学習状況調査」と「とちぎっ子学習状況調査」の検証分析から、問題の意図を読み解く読解力や言語に関する知識に課題があると分かった。

そこで、まず読解力や言語に関する知識を育むための指導や教材について、S&U コラボ事業や新聞社主催の読解力向上プログラムを活用して、新しい視点で指導の改善を図ることにした。また「学び合いを支える」能力を基礎基本、コミュニケーション能力、家庭学習と考え、基礎基本を育むための常時活動やお互いの考えをよりよく交流させるための授業の工夫・改善を図ると共に、家庭学習を充実させるアプローチの仕方についても様々な実践を重ねていくこととした。

（２）　研究の仮説

「対話」を意識した指導法を工夫・改善することにより、円滑な対話を成立させるための授業が読解力の向上や深い学びにつながるものと考える。

３　研究の内容

（１）具体策

①授業研究の充実
- ねらいの明確化と、評価方法の工夫
- 帯学習の開発、共有、システム化
- 読解力向上プログラムの活用

②朝の活動の有効活用
- 継続的な読書の時間の確保（選書の指導）

③個に応じた学習活動
- 帯学習の開発、共有、システム化
- 補充的、発展的な学習の実施（帯学習、家庭学習）

④ＩＴ機器の効果的な活用
- タブレット端末の効果的な活用
- 課題の提示、画像での説明、振り返り、作品制作などでの活用

⑤指導体制や学習形態の工夫
- 座席の形態、話者の順番、論点の明確化

⑥家庭学習の習慣化
- 親子で学習（実施時刻、予習復習の具体例提示、読書等）について話し合う習慣の啓発
- 保護者への啓発の仕方（家庭学習カードの工夫、学級懇談会の工夫、学年通信での発信）

⑦小中一貫教育との関連
- 家庭学習協調週間の取組（カードの工夫、内容統一、家読カードの工夫）
- 授業スタイルの統一、小中他校との絆を深める取組（道徳９年間の価値一覧を常備等）

（２）研究の実際

日時	対話を意識させる取組	学年	研究授業（教科・単元など）
6/10	「増加・合算」の動作化	1	算数「あわせていくつ　ふえるといくつ」
6/10	ゴールは２の１図鑑	2	国語「習った漢字をなかま分けしたずかんを作ろう」
6/10	言葉を視覚化する手立て	3	国語「俳句や短歌を楽しもう」
6/10	ゴールは角で模様を作る	4	算数「角の大きさ」
6/10	数直線をアイテムにする	5	算数「小数のわり算」
6/10	生活改善がゴール	6	国語「提案する文章を書こう」
7/9	保健と理科のコラボ	5	理科・保健体育「ヒトのたんじょう」
7/14	意見の表出のために	4	国語　学校に通うことの意味を考えよう「ﾗﾝﾄﾞｾﾙは海をこえて」
7/12	運動能力での差異が僅少	6	体育「ネット型ゲーム　テニピン」
10/7	音楽で福祉教育	5	音楽「春の海」宮城道雄
11/17	逆算の発想で導入の工夫	6	外国語「Olympics　and　Paralympics」
11/29	挑戦状で意欲の喚起	4	算数「四角形の特ちょうをしらべよう」
11/30	材料と技を吟味する	1	図工「あそぼうよ　パクパクさん」
12/10	教材の特性を分析する	3	国語「三年とうげ」

４　本年度の成果と課題

（１）　研究の成果

①S&U コラボ事業で「ゴールを意識した導入」「逆算の発想」「教材の特性を生かした指導」を学び、目的を持った教材研究の愉しさを実感できた。
②毎朝の読書時間の確保が落ち着いた生活のスタートに数字に表われにくい効果を上げている。
③家庭学習や自主学習ガイドの充実やタブレットの日常利用により、自主的な学習が増加した。
④タブレット端末の利用により、教材の理解促進、課題の記録・経過観察・共有等が簡便になった。
⑤密にならない意見の交換や論点整理が推進された。
⑥国中学区一斉の家庭学習協調週間の実施により各家庭での取組に同一歩調が見られ、ゲーム等の利用時間や生活時間の見直し、一家揃っての家読がなされた。

（２）今後の課題

①対話が深まったかどうかの判断がつきにくい。自分の考えを表出する、相手の意見を受け止める、新たな意見をもったかを図るための手段が限られる。
②選書指導の在り方（目的、タイミング、環境整備等）
③タブレットの活用について研修が急務である。（利用の制限・きまり、簡便な利用法等）
④帯学習のシステム化（データの蓄積・共有・改善）が実現していない。